

■副院長就任及び 地域医療部再編について

副院長兼診療部長事務取扱兼地域医療部長事務取扱
兼診療部血液内科 主任部長事務取扱 中尾 克之



本年4月より井上先生の後任として副院長および地域医療部長を拝命いたしました。早いもので平成元年に旧大川総合病院に赴任してから30年余りになります。この間、地域の皆様には大変お世話になりました。令和となってからも、30年とは言いませんが、末永くご支援いただきますようお願い申し上げます。

地域医療の崩壊が叫ばれて久しいですが、「地域医療とは」と難しく考える必要はなく、日々の診療が地域医療そのものと言えるでしょう。今後も地域の先生方、医療、福祉、介護関係の方々と密に連携しながら、さぬき市民病院に求められる役割を果たして地域医療を発展させて

いきたいと思っております。
どうぞよろしくお願いいたします。

また、業務の充実を図るため地域医療部内の組織を再編しました。限られた人員ながら、入院支援、退院調整、在宅医療など頑張っておりますので、ご活用ください。

地域医療部



総合支援室



この4月から、地域医療連携室と地域包括ケア推進室が一つとなり「総合支援室」と名称変更し、業務を行うことになりました。外来受診、入院、入院生活、退院について安心して療養ができるよう、外来予約や入退院支援などを看護師4名、社会福祉士2名、医療事務1名にて行います。患者さんが「さぬき市民病院を受診して良かった」と言っていただけのように努めてまいります。

在宅療養支援室



平成から令和に移る今年度、地域医療部も再編されました。在宅療養支援室は、在宅での療養生活が安心して送れるように、医療職（診療・リハ・看護）が支援する部署です。地域住民及び地域サービス事業所の方々への相談支援や連携の窓口として、新たな気持ちで業務に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

■副院長就任について

副院長兼診療部脳神経外科主任部長事務取扱
笹岡 昇

このたび副院長（災害医療担当）兼診療部脳神経外科主任部長事務取扱を拝命し、身が引き締まる思いです。当院は災害拠点病院として、地震・台風などの自然災害はもとより大規模交通災害などが発生したときには緊急対応し、被災地域内の傷病者の受け入れを行う役割を担っています。また、行政機関や関連公共機関と連携して、東讃地域全体の災害医療活動を統括する役目もあります。近年、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率が従来の70%程度から70~80%へと見直されました。近い将来起こるであろう大規模自然災害に直面しても適切な対応ができるよう、リスクマネジメントおよびクライシスマネジメント体制を整えていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。



■副院長就任について

副院長兼診療部外科主任部長事務取扱
篠原 篤

愛媛県四国中央市の出身で高校卒業まで在郷し、出身大学は滋賀医科大学と、2007年に当院赴任するまでさぬき市との縁はありませんでしたが、地域のさまざまな“ひと”“もの”“こと”に支えられ、これまで過ごしてこられました。大川医療圏は県内他地域と比べても人口減少と高齢化変化が早く進むと言われており、地域医療の維持も今後の課題のひとつと思っています。医療スタッフ不足などの問題で十分な医療サービスを提供出来ていない現状を反省し、“ひと”“もの”だけでは無く“こと”（=pricelessな出来事）の大切さを感じながら、皆様の支えのもとで、地域医療に貢献していきたいと思っております。これからも宜しくお願い致します。



■副院長就任について

副院長兼診療部整形外科主任部長事務取扱
有馬 信男

今年度4月より4名の副院長の一人として副院長職を拝命いたしました。昨年度まで多岐に及んでいた副院長業務を分割し、円滑に業務を進めるべく医療安全業務を担当いたします。最近の医療を取り巻く環境は非常に厳しく、特に地方では急速な高齢化と過疎化に伴い公的病院の役割は増すにも関わらず存続の危機が続いています。当院も例に漏れず、経営状況は楽観にはほど遠く、自助努力では立ちゆかないのが現状です。しかし、医療については自助努力にて当院最高のものを提供し安全に享受いただく必要があります。これまで積み重ねてきた医療安全業務を常に最新の医療状況に照らし合わせ、職員が行えるよう尽くしたいと存じます。



■第1回さぬき脳卒中市民公開講座のご案内

[プログラム構成]

日 程：令和元年5月26日（日）
時 間：10：00～12：00
場 所：さぬき市民病院 2階会議室
参加費：無料（事前のお申込みは不要）

- 1：脳梗塞の「前ぶれ」を知っていますか？
- 2：急性期脳梗塞に対するカテーテル治療
- 3：脳卒中について～薬剤師の視点から～
- 4：脳卒中になったら日常生活はどうなるか？
- 5：脳卒中を予防する食生活

新任医師及び職員 紹介

平成31年4月1日付け採用者を、皆さまにご紹介します。
よろしくお願ひいたします。

<医師3名、研修医4名、看護師8名
助産師1名、介護福祉士3名>



やまもと ひろゆき
山本 博之

[総合診療科(外科)]

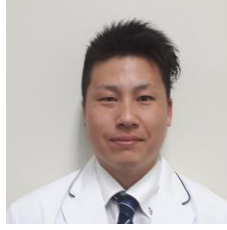
4年間北海道へ赴任し、久しぶりに香川へ帰ってきました。



うえむら なおや
植村 直哉

[麻酔科]

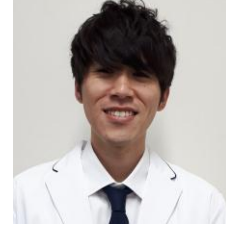
皆さまのお役に立てるよう努めます。



やだ しゅんすけ
矢田 俊介

[整形外科]

精一杯頑張りますのでよろしくお願ひします。



おおかわ けんた
大川 健太

[内科研修医]

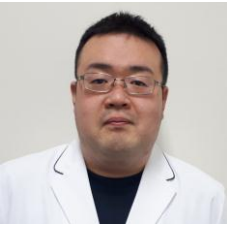
明るく頑張ります。宜しくお願ひします。
(※平成31年2月～勤務)



さいとう りょうた
佐藤 涼太

[内科/脳外科 研修医]

頑張りますので、宜しくお願ひします。



かし ともひろ
加地 智洋

[内科研修医]

日々精進して参りますので、よろしくお願ひいたします。



ただら りゅうすけ
多田 羅 佑介

[内科研修医]

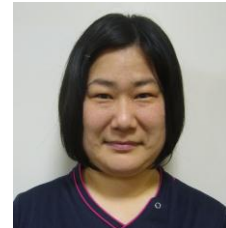
分からない事も多いですが日々頑張ります。宜しくお願ひします。



みたに まりな
三谷 真莉来

[看護師]

精一杯頑張りますので宜しくお願ひいたします。



やました あゆみ
山下 歩美

[看護師]

新たな気持ちで頑張ります。よろしくお願ひします。



きよはら れな
清原 伶奈

[看護師]

笑顔をお忘れずに患者さんと接していきます。宜しくお願ひします。



とまつ さよ
土松 紗也

[助産師]

笑顔をお忘れず、全力で頑張ります。ご指導よろしくお願ひします。



ひぐち みさと
樋口 三嵯季

[看護師]

明るく元気に謙虚さを忘れず素直に！をモットーに頑張ります！



なかむら さちりか
中村 沙緒里

[看護師]

笑顔をお忘れず、自分の言葉や行動に責任を持ちます。



あらかわ りょうすけ
荒川 諒介

[看護師]

知識・技術を身につけ、患者さんを笑顔にできるように頑張ります。



そごう たかし
十河 渚

[看護師]

一生懸命頑張ります。ご指導よろしくお願ひします。



たかはし かおり
高橋 香織

[看護師]

ご指導・ご助言、よろしくお願ひします。



しま ようこ
島 洋子

[介護福祉士]

明るく笑顔で頑張ります。



きむら たくや
眞田 琢也

[介護福祉士]

患者さんを笑顔にできるように頑張ります。



きむら ゆうき
木村 悠幹

[介護福祉士]

人の心に寄り添える介護福祉士になります。

当院からのお知らせ

■休日・時間外における救急診療体制の変更について

当院では、大川地区の二次救急医療を担うため、休日及び時間外において、内科医については365日毎日1名及び外科系医師については2日毎に1名の待機を行ってまいりましたが、近年の医師不足に伴い、平成31年4月1日から、輪番日(※)となる日には内科医師が1名、それ以外の日には外科系医師が1名の待機体制で時間外の救急診療に当たることとなりました。

これに伴い、これまで以上に当日における診療の専門性が限定されることから、患者さんの症状によっては診療の希望に応じられないことや救急車への対応としては、非輪番日における内科系診療が原則不可能となります。

そのため、血液透析や抗がん剤治療、免疫治療など専門性の高い治療を当院で受けておられる方の救急診療の希望の際も、ご来院の前に、まずは、お電話にて当直看護師に症状をお伝えいただきますようお願いいたします。

診療の可否については、当直スタッフ（医師及び看護師）の判断にて、主治医とも相談のうえ、折り返しご連絡させていただきますが、状況に応じては、他院への救急受診をお願いする場合がありますので、ご了承ください。

地域住民の皆様には、たいへんご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただき、できるだけ時間内に受診いただくなどのご協力をお願いいたします。

(※)輪番日とは、内科系患者の救急車搬送先として当番病院となる日のことをいい、大川地区では、当院と県立白鳥病院とが概ね2日ごとに交代で当番病院を担っています。

■分べん取扱休止について

当院では、長きにわたり大川地区唯一の分べん取扱機関として、周産期の診療を実施してまいりましたが、常勤医師の退職等に伴い、本年8月以降は、誠に残念ながら従来どおり分べん取扱機関として継続していくことが極めて困難な状況となります。

つきましては、令和元年7月31日を以って、当院における分べん取扱をいったん休止させていただきます。

これにより、分べん予定日が令和元年7月15日までの妊婦さんにつきましては、これまでどおり他院からのご紹介や里帰りによる分べんも受託する予定ですが、同月16日以降の分べん予定日の妊婦さんにつきましては、お断りすることが予定されていますのでご承知おきください。ただし、この予定に変更が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

なお、ひき続き妊婦検診等の外来診療は、実施してまいります。分べんや夜間休日の急変時の対応等については、周産期に係る連携機関である香川大学医学部附属病院総合周産期母子医療センターのご支援を賜り、当該センターで実施していただくことになる予定です。

今後、当院といたしましては、あらゆる手立てを通じて常勤医師の確保に努める一方で、助産師が中心となって分べん対応を行う“院内助産”の体制整備を早期に検討するなど、分べん取扱の早期再開に向けて取り組んでまいり所存ですので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。